

教科名	数学	科目名	数学 A	年次	1 年次	単位数	2
教科書	新編 数学 A		副教材	新課程 Study-Up ノート 数学 A			

1 科目の目標

場合の数と確率、図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 学習について

①授業の持ち物について：教科書、問題集、ノート

②予習の仕方について：前もって、次回授業の教科書 2 頁程度を読んでおきましょう。

③授業の受け方について<授業では、授業内容が「わかる」ことを心がけましょう。>

ア 授業は集中し、先生の説明をよく聞いて、板書を早くノートに正確に写すことを心がけましょう。

イ 教科書の練習問題は、自分の力で解くように心がけましょう。また、先生の解答で必ず答え合わせをして、理解できた点とそうでない点を明確にしましょう。

④家庭学習の仕方について

<家庭学習では、「わかる」から「できる」にまで理解を深めることを心がけましょう。>

ア 授業で習った箇所の教科書を読み返してみよう。その際、公式や重要事項等は、もう一度ノートに書き写してみよう。

イ 宿題（問題集）は、出された当日に必ず自分の力で解いて答え合わせをしておくようにしよう。

ウ 宿題(週末課題)は、週末土日課題ですので必ず自分で解いて答え合わせをして週明けの最初の授業に提出しよう。

3 学習計画

考査		単元名（学習項目）	学習内容（ねらい）
前期	前期 中間	集合と命題 場合の数	日常的な事柄を集合の要素の個数として数学的に数えようとする。 順列・組み合わせの考え方を具体的な事象の考察を通して理解させる。また、 順列・組み合わせの考えを利用して、いろいろな場合の数を求められる。
	前期 期末	確率	事象と集合の関係を通して、確率の基本性質が成り立つことを理解させる。特に、 排反事象の場合の加法定理、余事象の確率については具体的な問題で定着を図る。
後期	後期 中間	平面図形	線分の内分・外分、三角形の角の二等分線と比、三角形の外心、内心、重心と 内接円、外接円等について学習する。
	学年 末	空間図形	直線と平面、空間図形と多面体の性質について理解を深める。

4 観点別評価

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。	数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察することができる。	数学のよさを認識し数学を活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。

5 評価方法

計 70 時間（50 分授業）

上記の観点を踏まえ、定期考査・課題考査・授業内小テストの成績、単元ごとのパフォーマンス課題、宿題などの提出された課題、学習態度等を以下の割合で総合的に評価する。

知識・技能…50% 思考・判断・表現…30% 主体的に学習に取り組む態度…20%